

様式－3－2

成果報告書の概要

助成番号	研究名	研究者・所属
第 号	避難行動のモデリングと避難の理想像を導くための基礎的研究	関谷直也・東洋大学
<p>本研究では、「避難」についての研究を行った。</p> <p>災害時には避難勧告・避難指示が発表されるが、実際に避難をする人は極めて少ない。種々の災害で避難率の低さが問題となっている。避難勧告・指示の出し方についても混乱している。避難行動は、防災研究における一つの究極的な被災回避手段の一つである。研究の蓄積はあるものの、人々の「避難行動」の実態およびどのようにすれば人は避難するのかについては、学問的整理が不十分である。「避難のあるべき姿」すら未整理である。本研究は水害時の避難にかかる問題点、論点の整理を行い、今後の道筋を示す。これが本研究の目的であった。</p> <p>本研究では、第一段階として、日本災害情報学会研究会メンバーを中心にブレインストーミングを行い、避難に関する問題点を水害・津波を中心として整理した。</p> <p>第二段階として、本研究の実施途中で発生した東日本大震災において、以下の調査研究から、避難に係る問題点を整理した。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 申請者らほかを中心としておこなった「共同研究」としての住民調査・ヒアリング調査（旅費等を支出） ② 本調査研究助成として、「避難に係る実務上の課題の抽出」を目的として、東日本大震災の被災地沿岸を中心におこなった自治体調査 <p>と二つの研究を実施した。</p> <p>これらの研究を通して、避難の課題はいくつかあげられた。避難に関してまず解決すべき課題をあげれば、根本的な課題として、主として2つあげられる。</p> <p>一つは「広報」の問題である。防災行政無線などを使った広報ができなかった自治体は避難率が低かったこと、広報に携わった人が犠牲になっていることから、避難時の呼びかけの問題点が明らかになった。自助意識の醸成が重要であるとともに、大規模災害になればなるほど「救助者」側の問題も明らかになり、その後の長期的な避難体制にも大きな影響を与えることが明らかとなった。</p> <p>今、一つは心構えを重視しすぎる「精神主義」である。また、避難に関しては、すべて心構えで乗り越えなければならないという過度な「精神主義」が跋扈している。ソフト対策重視の延長線上で、「避難」をめぐる問題については「被害にあった人は危機意識が欠如していたのだ」という精神主義が跋扈している。</p> <p>本研究は、「避難」がきわめて大きな課題となった東日本大震災の発生にかんがみ、本研究の趣旨にそった形で、東日本大震災における避難について実証研究を行ってきた。行政が避難の呼びかけを行い、住民に避難をしてもらうという点についていえば、津波避難は水害避難と共通する課題が多々あるからである。本研究で得られた知見、特に被災地沿岸自治体の調査は、他に例のない調査であることから、今後の避難の検討に大きな価値を持つ知見となるといえる。災害避難に資するためこの成果をさらに分析しつつ、水害、津波など災害避難全般に活かすべく研究を進めていきたい。</p>		